



お客様の要望に応えるため、常に挑戦

株式会社アイティー・コーポレーション
代表取締役社長 戸村 文男

弊社は平成16年4月に設立し、電子部品用スクリーン製版の製造及び販売を行っております。

設立当初は仕事も無く、いつからでも製造できるように生産体制を維持している状況でした。

そんな中、弊社の製品を評価して頂いたお客様の中から少しずつ採用され、多くの受注に繋がっていきました。このことから、人脈の大切さ、有難さを痛感しました。

平成17年に、お客様から「スクリーン製版に透明樹脂が付着して印刷しないと不具合が発見ができない。」との相談を受けました。不具合は透明な樹脂が原因のため、実体顕微鏡等での検査では発見が難しく、何とか容易に発見できないかと東京の企業と共同で、検査装置の開発を進めていました。そのような状況の中、(公財)ごしま産業支援センターの研究開発助成の話を頂き、工業技術センターと3者で開発を進めることになりました。透明樹脂を検出する検査装置の光源として、東京の企業の提案と工業技術センターの提案の2方法を採用し、光源の選択及び両光源を同時に使用できるようにした検査装置を開発しました。これにより、透明樹脂をモニター上で確認することに成功しました。

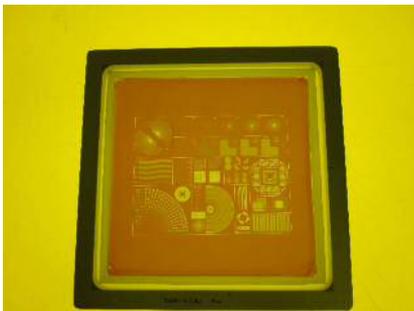
この検査装置は、工業技術センターと共同で特許出願し、昨年8月に特許登録されました。現在

は、残された課題を今後どのようにクリアしていくか検討しております。

また、この他にもお客様から「スクリーン製版の感光性樹脂(乳剤)の耐溶剤性を強くすることができないか」と課題を頂きました。塗布された樹脂の厚みを現在よりさらに薄くし耐溶剤性を強くするのは、とても難しい課題でありました。しかし、弊社の技術者が、試行錯誤を繰り返し、さらにお客様が要望する感光性樹脂をブレンドして、オリジナル感光性樹脂の開発に成功しました。この製品は、お客様から満足と感謝の言葉を頂きました。また、技術者も今までの苦勞が報われたと言って喜びを分かち合いました。

国内情勢が悪い中、グローバル化に向けての動きも必要と考えております。近隣諸国でもスクリーン製版を使用している会社は多数あります。内製で作製している会社や外部から購入している会社などさまざまですが、品質の良い製品やお客様にあった仕様などオリジナルな提案を行って対応していきたいと考えています。

今年3月には、弊社の工場を南九州市に新設いたしました。今後は、電子部品分野以外でも一般印刷をはじめ、いろいろな製品の開発を進め視野を広く持ちつつ事業展開を図っていきたく思います。



電子部品用スクリーン製版



スクリーン製版検査装置



新工場外観